

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-161	15-106	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p style="text-align: center;">Driving Under the Influence of Alcohol, Marijuana, and Alcohol and Marijuana Combined Among Persons Aged 16-25 Years - United States, 2002-2014.</p> <p style="text-align: center;">16～25 歳の若者におけるアルコール、マリファナおよび双方の影響下での運転 — アメリカ、2002～2014 年</p>		
執筆者		
Azofeifa A, Mattson ME, Lyerla R.		
掲載誌		
<p style="text-align: center;">MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2015 Dec 11;64(48):1325-9.</p> <p style="text-align: center;">doi: 10.15585/mmwr.mm6448a1.</p>		
キーワード		PMID
アルコール、マリファナ、運転		26655490
要 旨		
<p>目的：アルコールまたはマリファナおよび双方の影響下での運転について、薬物乱用・精神衛生サービス局による NSDUH (National Survey on Drug Use and Health) のデータに基づく最新の全国推計を報告する。</p>		
<p>方法：2002－2014 年の調査 (National Survey of Drug Use and Health) のうち、自動車事故が最も多い 16～25 歳について、過去 12 カ月間の違法薬物、アルコールについて、運転可能年齢(16～20 歳)および法定飲酒可能年齢(21～25 歳)で、性別・人種別に区分し解析した。</p>		
<p>結果：アルコール単独の影響下での運転率は、16～20 歳で 16.2%から 6.6%に低下、21～25 歳で 29.1%から 18.1%に低下した。また、アルコールおよびマリファナ双方の影響下での運転率は 16～20 歳で 2.3%から 1.4%へ、21～25 歳で 3.1%から 1.9%へそれぞれ低下した。16～20 歳のマリファナ単独の影響下での運転率は 18%低下した。</p>		
<p>結論：アルコールや薬物影響下での運転率の低下傾向を維持し、公道の安全性を確保するためには、今後も飲酒可能年齢を規定した法律、21 歳未満の運転者の飲酒を禁ずる最低飲酒可能年齢法や、沿道における飲酒検査といった公衆衛生上の介入が必要であり、さらにマリファナについても検出法の改善や運転に対する基準の策定が必要と考えられた。</p>		